

岡崎先生に外務大臣表彰

岡崎恒夫先生は「1970年代から40年以上にわたり、ポーランドにおける日本語教育の発展に寄与し、多くの優秀な卒業生を育成し、ポーランドの日本研究・日本語学習の環境を整え、日本文化の普及にも大きな足跡を残されている」ことから、今年度(2014)の「日本外務大臣表彰」を受けられました。伝達式は10月28日(火)に山中誠大使出席の下、ワルシャワ大学図書館で、第8回ワルシャワ大学日本祭に併せて行われ、ノヴァク・ワルシャワ大学副学長をはじめ、ワルシャワ大学関係者、日本研究者、教え子などが多数出席し、とてもなごやかな会だったそうです。岡崎先生の教え子には、ヤドヴィガ・ロドヴィチ前駐日大使をはじめ、歴代のポーランド大使館文化担当官(ブワシチャク広報文化センター長ほか)、ワルシャワ大学はじめ国内外の日本学科で教えている多くの日本学者がいて、みなさん両国の文化交流にたいへん貢献されています。(安藤厚)

(写真出所)在ポーランド日本国大使館 HP「ワルシャワ大学岡崎上級講師に対する外務大臣表彰伝達式(10月28日)」/Embassy of Japan in Poland (Facebook) Dyplom Ministra Spraw Zagranicznych Japonii dla Pana T. Okazaki



外務大臣表彰伝達式で 岡崎氏と山中大使(上) /ワルシャワ大学の学生たち(下)

《東京事務所より》

ポーランド大統領訪日記念Jazzコンサート

ポーランド大統領の訪日は延期になりましたが、日米欧混成による訪日記念 JAZZ コンサートは予定どおり11月26日ヤマハホールで開催され、私も広報文化センターのご招待を受け、所用で上京した兄(副会長)とともに楽しませていただきました。

開演に先立ち、ポーランド民主化25周年を記念したゴザチェフスキ駐日大使のご挨拶と、そのために作成された、民主化直後の驚きと混乱を示す短い映画も上映されました。大使は私どもの席を一つ隔てて着席され、Jazzがお好きなのかどうかは分かりませんが、演奏中は一切席を立たずに、アンコール演奏まで楽しそうに聴いておられました。

演奏者は、日本人ピアニストのクリヤ・マコトをはじめ、ポーランドを代表するサクソ奏者のシルヴェスタ・オストロウスキ、トランペット奏者ピョトル・ヴ

オイタシク、アメリカ人のベース奏者エシェット・オコン・エシェットおよびドラムス奏者のニューマン・テイラー・ベーカーによるクインテット(5重奏団)です。

この演奏会は欧州ヤマハが協賛しているそうで、やや小柄なピアニストは、ヤマハのフルコンサート・ピアノを、スウィングしながら終始椅子から飛び上がりつつ打鍵している姿が印象的でした。

曲目の中にはスタンダードな聴いたことのある旋律も含まれていましたが、一切の説明なしに、一気にフォルテッシモで演奏して聴衆を圧倒しました。一方、中程ではパーカッションが、アメリカの古い洗濯板を、両手の指に金属キャップをはめて、ソロで軽妙なリズムを刻むと、それに呼応して決して響きすぎない音量で、多国籍ユニットのジャムセッションが同調する姿は感動的でした。

実は日頃建築音響に従事しているもので、ドラムや管楽器を多用するJazzや吹奏楽の演奏は、小規模な音楽ホールでは個々の楽器の音が聞き取りにくくなるという傾向を十分承知して聴いていました。

霜田英麿(本会東京事務所)

